

日本図書館研究会 2022年度決算報告・2023年度事業計画予算案

2023年度事業計画等の 提案にあたって

理事長 原田 隆史

新緑の匂い立つ時期になりました。今春は桜の開花が早まるなど年による多少の違いはあるにしても、自然の美しさは古今を問わず私たちの心を和ませ豊かにしてくれます。先日吉野の千本桜を見に行きましたが、混雑を避けて早朝に行ったこともあり、「花ざかり山は日ごろの朝ぼらけ」と詠んだ松尾芭蕉の頃と変わらぬ光景を見ることができました。

このような自然の姿とは異なり、私たちを取り巻く社会の状況は、短い間にも大きく変わります。ここ3年ほど続くコロナ禍はリモートワークの急速な普及と常態化をもたらし、図書館サービスもオンラインサービスやデジタル資料の提供拡大が求められるなど大きな影響を与えました。また、もう少し長いスパンで見れば、2006年頃から日本でも普及が進む YouTube は今や情報を入手するためのツールとして若年層では図書や雑誌と並ぶ一般的な存在になっています。1998年に Google がサービスを開始してからまだ四半世紀。1990年に提唱された World Wide Web は昭和の時代には生まれてもいなかったことを考えれば、急速な変化を実感できるかもしれません。YouTube をはじめとした情報提供手段の変化や Google をはじめとした情報検索手段の革新は図書館サービスにも大きな影響を与えてきました。

さらに人工知能技術を利用した実用サービスの発展はめざましく、2022年11月に公開した ChatGPT は Web 上に構築された Q&A サイトの状況を一変させるだけではなく、レファレンスサービスをはじめとした図書館の姿をも大きく変える可能性を秘めています。図書館サービスの中心活動として資料の貸出とともにレファレンスを位置づけることも多い

現在の図書館ですが、電子資料の拡大と人工知能技術の進化は図書館に求められるものを大きく変えていくと思われれます。場合によっては図書館が不要になるという意見さえ出てくるかもしれません。

ここまでを私の考えとして与えた上で、ChatGPT に将来の図書館像について記述させたところ、以下のような回答が戻ってきました。

“人工知能技術の進化によって、図書館が不要になる可能性があるという議論がある一方で、現状ではそうした懸念は必ずしも現実的ではありません。図書館は、単に書籍を提供する場所ではありません。図書館は、情報の収集、整理、保存、提供に関わる機能を担い、その役割は多岐にわたります。また、図書館にはコミュニティの場としての機能もあります。人々が出会い、学び、交流する場を提供することで、社会の発展に貢献しています。さらに、人工知能が進化するとともに、情報の取捨選択においても人間の判断が必要であるという認識が広がっています。人工知能は、あくまでプログラムされたルールに従って情報を処理しますが、情報の中には主観的な判断が必要なものもあります。そうした場合には、人間の判断が必要になります。このように、図書館が持つ多様な役割や人間の判断が必要な場面から考えると、人工知能技術が進化しても図書館の役割は相対的に低下することではなく、むしろ変化していく可能性があると言えます。例えば、図書館は人工知能技術を活用して、より多くの情報を整理し、利用者にとってより使いやすい情報サービスを提供することができるかもしれません。”

もちろん ChatGPT 自体が未来予測をするわけではありません。あくまで過去の各種の言説をまとめただけの記述です。しかも、この文章をよく読むと何を言っているのか良くわからないところもないわけではありません。しかし、この中で「図書館は、単に書籍を提供する場所ではありません」とする部分と「図書館の役割は相対的に低下するのではなく、むしろ変化していく」という部分は私自身も感じる非常に重要なポイントでもあると思います。逆説的に言えば資料の提供を中心とする図書館の姿では生き残れない可能性が高いともいえるのではないで

しょうか。図書館にとってはポストコロナ以上に、いかに Post ChatGPT の世界で存在感を発揮する姿を、いま構想できるかが将来を左右する鍵であるとも言えるでしょう。



この問題は少し時間をかけて図書館界全体で検討していくことが必要として(といっても、それほど残された時間は多くなさそうですが)、日本図書館研究会の活動についてです。昨年に引き続き景気の悪い話で恐縮ですが、2022年度も日本図書館研究会の財政は厳しい状況が続いています。会員数も2022年度入会が34名1団体であったのに対して退会者数は36名13団体でありました。団体に関しては会員を退くかわりに書店から図書館界を購入される例もありますが、趨勢としては減少傾向が続いているといえます。

現在、理事会などでも財政健全化のための方策を検討しております。経費節減や会議へのオンラインでの参加も併用するなど、できるだけ努力を継続していきたいと思っております。各種の改革に関しては評議員・会員の方々からも数多くの意見を頂戴しており、会費の徴収から図書館界への投稿のシステム化など多くの改善点があることも承知しております。まだ道半ばではありますが、できるところから少しでも努力を続けて行く所存です。また、活動の点では新型コロナウイルス感染症もインフルエンザなどと同様に5類相当に位置づけが変わったことがあり、講演会や研究集会などについても今年度からは対面での開催に戻すことを予定しております。さらに、コロナ渦中は中止していた国際図書館学セミナーについても年末に開催を予定しております。

以下に掲載する事務局長および各委員長、担当からの提案説明、事業計画、予算案などの内容を検討していただき、本会の実質的の最高議決機関である評議員会の審議に向けて、会員の皆様からの多くのご意見、ご提言を期待しております。100周年に向けた日本図書館研究会の新たな活動に向けて、今後とも会員の皆様方のご指導とご協力をお願い申し上げます。

(はらだ たかし 同志社大学)

事業計画・予算案の提案説明

事務局長 松井 純子

2020年から続くコロナ禍で、2022年度も集会・行事の大半はオンライン開催でしたが、コロナ感染の収束とともに、社会全体がコロナ前の日常を取り戻しつつあります。日図研も3月の研究大会を4年ぶりに集会形式で行い、活気ある大会となりました。そうした状況での22年度収支決算、および23年度事業計画・予算案を説明します。

1. 2022年度決算

一般会計の《収入》では、「会費」収入が予算を45万円ほど上回りました。これは、会費納入件数が766件(人)と、一見すると会員数が増加したように見えますが、そうではありません。『界』前号(23年3月号)発行後に新年度会費を前納された会員が150名以上おられ、これが昨年同時期と比較して100名ほど多かったことで結果的に予算案よりも60数名分の会費増収となったためです。また、団体会員の会費納入件数が増えたのも同様の理由です。会員数は、個人会員・団体会員とも減少傾向にあることは変わりありません。特に近年は大学図書館の退会が増えており、大学における予算面での厳しさが窺われます。「『界』売上げ」は書店等を通じた『界』の購読ですが、予算を少し上回り、「広告料」収入も新たな広告の掲載によって増収となりました。その他、2023-2024年度役員選挙費と75周年記念事業終了にともなう第3特別会計の残金を繰り入れて、《収入》全体の決算額は当初予算よりも約62万円増となりました。

次に一般会計の《支出》です。コロナ禍で、各種委員会と理事会、評議員会は昨年度と同じくオンライン開催となり、「会合費」と「交通費」の支出は予算を大幅に下回りました。「研究助成費」でも、図書館学セミナーと研究例会の大半がオンライン開催となり、ブロックセミナーは開催されなかったた

め、やはり予算を大きく下回りました。

「雑誌刊行費」は、「75周年記念特集」の「第Ⅳ部年表」が『界』74巻6号掲載となったことで通常年よりも予算を増額しており、ほぼ予算どおりの決算額になりました。

「組織強化費」は執行がありませんが、SNSやメーリングリストを通じて会員への働きかけを行いました。また「国際交流費」も、国際図書館学セミナーの開催が23年度に再々延期されたため、執行されませんでした。「役員選挙費」は、投票数の増加と郵便料金の値上げにより、ほぼ予算を使い切りました。「事務局費」では、22年10月に大阪府の最低賃金がアップしたため、事務局員の時給を50円値上げしましたが、予算内に収まりました。

上記の結果、**一般会計**の収支は約420万円もの黒字となり、次年度に繰り越すことになりました。コロナ禍で活動に制約があったとはいえ、ここまでの大幅黒字は意図していませんでした。23年度は集会形式で会合やイベントを開催する予定です。それにともない、支出がかなり増えると予想されます。

特別会計に移ります。《収入》すなわち刊行物の売り上げの合計は、予算を大きく下回りました。これは、『日本図書館研究会の75年』（『界』75周年記念号の単行本）の刊行が遅れて23年3月末にずれ込んだことで売り上げが得られず、『情報資源組織法』等も予想より売り上げが低調だったためです。

特別会計の《支出》は、『日本図書館研究会の75年』と『塩見昇の学校図書館論』の「出版印刷費」が22年度内に執行できませんでしたので、その分は23年度に持ち越されます。その結果《支出》は「通信費」と選挙費用の一般会計への繰り出しのみとなり、予算の大半を23年度に繰り越しました。

第2特別会計(図書館研究奨励賞基金)は、22年度奨励賞を2件授与したため、《支出》の「奨励賞副賞」が予算を上回りました。

2. 2023年度事業計画(案)

昨秋から徐々にコロナ禍が落ち着きを見せ、終息に向かいつつあることで、2023年度は可能な限りコロナ以前の活動に戻していく予定です。ただし、会員の皆さまのニーズを重視し、オンラインが望ましい場合はオンラインも採用します。

とりわけ開催が待たれている国際図書館学セミナーは、今秋、上海図書館から発表者を招いて国内

にて集会形式で実施する予定です。

また、ブロックセミナーのあり方を検討しつつ、新たな試みとして、ブロックにこだわらない多様な研修機会を提供できるよう、地方の会員ニーズを把握し支援することに取り組みます。

出版事業では、新たに『塩見昇の学校図書館論：インタビューと論考』を23年4月に刊行します。

3. 2023年度予算案

コロナ禍前の活動に戻すことを前提に、予算案を作成しました。

一般会計の《収入》の柱である「会費」は、23年度分を22年度に前納された個人会員が多かったため、件数を減らして650件で予算化しました。学生会員と団体会員は22年度と同じです。「広告料」「雑収入」「利息」は変更ありません。特会からの繰り入れもありません。これに22年度繰越金420万円が加わりますが、これは予算額全体の36%を占めています。

一般会計の《支出》は、ほぼオンライン開催だった理事会・評議員会・各種委員会を対面開催に戻すため、「交通費」を見直し、必要に応じて増額を行いました。また「国際交流費」は、今秋開催の国際図書館学セミナー関係費用30万円を予算計上しています。これは、主に上海図書館から招聘する発表者の滞在費に充てられます。これにともない、図書館学セミナーは非開催となるため、「研究助成費」はその分の予算15万円を減額しています。「研究調査費」は、研究グループ助成を申請した8グループに助成を行います。22年度よりも申請グループ数が減少したため、予算額も減額しています。

「雑誌刊行費」は、『界』新企画の掲載を念頭に、表紙を含めて年間420ページで予算化しました。

「組織強化費」では、入会案内のリーフレットやチラシを数年ぶりにリニューアルして作成する予定です。「事務局費」は大幅に増額しました。これは、事務局員の交代・引き継ぎを念頭に、半年分の人件費・交通費を上乗せして予算化したためです。

上記の結果、**一般会計**の《支出》合計は、昨年度よりも膨らんで1,013万円となりました。会費収入と『界』の売上げだけでは支出を賅えない状況であり、前年度繰越金に支えられる予算案となっています。これにより、次年度繰越金が約150万円まで減少となっています。

次に**特別会計**です。《収入》では、『日本図書館研

究会の75年』『塩見昇の学校図書館論』の新刊2点の刊行により、それぞれ100万円の売上げを見込んでいます。『情報資源組織法』は着実に売上げていますが、期待した金額には至っていません。『図書館資料の目録と分類 増訂5版』は残部が200を切り、23年度内に完売の見込みです。

《支出》では、上記新刊書2点の印刷費のほか、『情報資源組織法』の別冊実例集の作成費用を「出版印刷費」に計上しました。

第2特別会計は、《収入》《支出》とも22年度と同様の予算編成で、大きな変更はありません。

23年3月に開催した第64回研究大会の対面開催を皮切りに、日図研の各種会合・イベントを原則対面形式に戻す予定です。オンラインは開催地/居住地に関わらず参加できるという利点がありますが、やはり対面での交流には代えられないと、研究大会に参加して強く感じました。図書館員であれ研究者であれ、日図研のイベント等を通じて交流したり、『界』誌上やホームページ等で情報提供を行うなど、多様な属性を持つ会員同士が連携することが日図研の特徴です。対面とオンライン双方の利点を活かしつつ、交流機会を提供していきたいと思えます。

* * * * *

ここに掲げた決算報告、事業計画・予算案の審議と承認は評議員会の役割ですが、会員の皆さんの声のできるだけ反映させたいと思えます。メール、FAX等でぜひご意見をお寄せください。当会の運営や行事についての感想・要望等でも結構です。

送付先：事務局 nittoken@ray.ocn.ne.jp

送付期限：5月22日(月) 必着

※2023年度評議員会：5月28日(日) 同志社大学
(まつい じゅんこ 大阪芸術大学)

充実した『図書館界』を目指して

編集委員長 石川 敬史

今期より『図書館界』編集委員長の大役を仰せつかりました。1947年5月の『界』1(1)からページをめくると、改めて伝統ある『界』の重みを痛感いたします。近年では、「日本図書館研究会75周年記念若手座談会報告」(73(3), 2021.11; 73(4), 2022.1)においても、『界』への期待が寄せられました。至らない点多々あるかと存じますが、会員の皆様をはじめ、嶋田学・副委員長、前川敦子・前委員長、編集委員のお力添えをいただきながら、充実した『図書館界』を目指していきたいと考えております。

はじめに、昨年度の『界』(74巻)の構成を報告させていただきます。

- ・《特集・第63回研究大会》グループ研究発表8本、シンポジウム報告4本、質疑応答・意見交換
 - ・《特集・2022年度図書館学セミナー》講演1本、報告3本、討議
 - ・《論文》4本、《研究ノート》4本
 - ・《解説・HOT TOPICS》「コロナ禍の中の図書館を考える」3本
 - ・《書評》8本、《新刊紹介》7本、《エコー》1本
- ご投稿いただいた会員の皆様、執筆依頼に快く応じてくださった皆様に心より御礼申し上げます。

以下、本年度編集委員会の計画です。

1. 《論文》・《研究ノート》・《現場からの提言》

『界』の核は会員の皆様からの投稿論文です。『『図書館界』原稿種別の定義』において、『論文』、『研究ノート』、実践的な報告・提言である『現場からの提言』は、査読の対象となります。昨年度、『論文』と『研究ノート』にご投稿いただいた本数は8本(うち採録(これから掲載も含む)6本)でしたが、『現場からの提言』へは0本でした。『界』は「敷居が高い」というイメージがあるようですが、本会の特長は、館種をこえた会員構成、そして「研究と実践の往復」といえます。『界』は、教育・研究はも

とより、会員の皆様の問題意識の共有、図書館現場における報告・調査研究の発表の場でもあります。引き続き会員の皆様による積極的なご投稿を期待します。

2. 特集・連載について

今年度も2号(7月)には例年通り、3月に開催された研究大会の特集を予定しています。シンポジウム『『図書館学の五法則』の実践(ランガナタン没後50年)』では久々の対面開催となり、活発な議論が展開されました。誌面での再現をお待ちください。また、今年度は国際図書館学セミナーが開催予定ですので、同じく誌面での報告を予定しています。

2020年度に開始した「解説 HOT TOPICS」は4年目を迎えました。昨年度の74巻は「コロナ禍の中の図書館を考える」を3本掲載し、好評いただきました。今年度も継続して企画中です。

このほか、昨年度より編集委員会では、新特集《誌上討論》の開始を検討してまいりました。かつて『界』に掲載された2つの特集《誌上討論》「現代社会において公立図書館の果たすべき役割は何か」(56(3), 2004.9 - 59(5), 2008.1), 「この困難な時代にあって図書館は何をすべきか」(68(6), 2017.3)を踏まえ、新特集が図書館現場・実践へ寄与できるよう、「研究と実践の往復」を視角に企画中です。

3. 《書評》・《新刊紹介》・《エコー》

昨年度は《書評》8本、《新刊紹介》7本の掲載でした。『界』において「図書館・図書館情報学及び関連領域」に関する専門書等を《書評》《新刊紹介》という形で紹介する意義は大きいといえます。今年度はさらに積極的に掲載していきたいと考えています。編集委員会では多様な書き手の発掘も意識いたします。編集委員会より執筆の依頼がありましたら、ぜひご協力をよろしくお願いいたします。書評の投稿も歓迎です。

《エコー》は、『『図書館界』原稿種別の定義』にて、「日本図書館研究会への意見・感想・要望、質問、また図書館界に関する話題・情報提供など、会員からの声を表明する場とする」としています。昨年度はご投稿いただいた1本の掲載に留まりました。情報提供や会員間の双方向な意見交換の場としてぜひご活用ください。

4. その他

編集委員会では投稿規定・執筆要綱の再検討を進めるほか、J-STAGE へのバックナンバー掲載(オー

プンアクセス)も検討いたします。

編集委員は、図書館に勤務する会員や大学教員から構成されています。編集委員一同、本務を抱えながらの編集作業となりますが、年6回の刊行を維持し、引き続き『界』の内容充実に努めてまいります。会員の皆様からのご支援を重ねてよろしく願いたします。

(いしかわ たかし 十文字学園女子大学)

研究委員会の主な事業について

研究委員長 日置 将之

2022年度も新型コロナウイルス感染症の影響は続きましたが、研究大会は久しぶりに対面で開催することができました。研究例会についてはほとんどがオンライン開催となりましたが、こちらも一部を対面で開催しています。今後も新型コロナウイルス感染症の状況を注視しつつ、適切な方法で研究事業を実施したいと考えています。

以下、会員間の研究成果の発表・交流・学習等の場として、研究委員会が今年度担当する主な事業をご紹介します。

1. 研究大会の開催

2023年度(第65回)研究大会は、2024年2月～3月頃に2日間の日程で開催する予定です。例年と同様、1日目は個人会員と研究グループの研究発表を行い、2日目のシンポジウムは図書館に関する重要なテーマを設定して論議を行いたいと考えています。開催方法については、状況に応じて対面とオンラインのどちらにするかを判断します。

大会のお知らせは、本誌75巻3号(9月)に個人発表等の募集を、4号(11月)に大会予告を、5号(1月)に正式な大会案内を掲載する予定です。また、本会のウェブサイトやツイッターアカウント等でも随時ご案内します。

2. 研究例会・特別研究例会の開催

日常的な研究・活動報告の場として年間7回程度開催しています。会員・非会員を問わず参加可能とし、広く開かれた形での開催です。発表に関心があるの会員はぜひご連絡ください。なお研究グループは、研究成果の公開を、研究大会のほか、研究例会での発表で行うことも可能です。

特別研究例会は、評議員会の日程にあわせて午前中に開催します。今年度は、本号 p.80に記載のとおり、5月28日(日)に前川和子氏(桃山学院大学大学院特別研究員・元日本図書館研究会理事・大手前大学)をお招きして開催する予定です。

3. 図書館学セミナーについて

図書館学セミナーは、時流に沿った関心の高いテーマを設定して討議する場として開催しています。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で延期となっていた国際図書館学セミナーを開催する予定のため、図書館学セミナーの開催は計画しておりません。

4. グループ研究への助成

会員の皆様は、地域又は研究テーマごとに研究グループを組織することができます。また、会員7名以上から構成される研究グループについては、研究委員会で審査し、理事会での承認を得た上で、原則として年3万円を2年間にわたり助成しています。助成を受けた研究グループには、研究大会や研究例会、本誌誌上などでの研究成果の報告をお願いします。研究グループの参加は全ての会員に開かれていますので、既存研究グループへの参加や新たな研究グループの結成については、各研究グループの連絡先や研究委員会にご相談ください。

5. お願い

研究大会・例会等のテーマや発表者についてご希望がありましたら、研究委員会までお知らせください。また、研究大会・例会等の講師のお願い・会場提供のご相談をさせていただくことがありますので、よろしく願いいたします。

研究活動のさらなる発展には会員の皆様のご指導が必要不可欠です。引き続きご協力いただけると幸いです。

(ひおき まさゆき 大阪府立中之島図書館)

図書館研究奨励賞

論文の完成度よりも
ひらめき、取組内容が
重要、奮って応募を

図書館研究奨励賞選考委員会

委員長 常世田 良

担当理事 久野 和子

日本図書館研究会図書館研究奨励賞は、故森耕一理事長が設立された基金によって1990年より30年以上にわたり運営されてきました。賞の名称にあるように「研究」の方向性、意義等を評価して「奨励」することが目的です。したがって当委員会では学術論文としての完成度を評価するのではなく、若手研究者、あるいはこれまで研究結果の公表機会に恵まれなかった方、また研究者以外の図書館現場で勤務されている方々など、いわゆるベテラン研究者以外の方々の「研究」内容を評価対象といたします。

具体的には日本図書館研究会の機関誌『図書館界』において査読を経て掲載された「論文」、「研究ノート」、「現場からの提言」が評価対象となります。学術論文としての体裁が考慮されない「研究ノート」、「現場からの提言」が評価対象となるのは前述の同賞のコンセプトによるためです。特にベテラン研究者以外の若手・中堅の書き手に注目し、その「著作」が有する新鮮な伸びしろや図書館界を刺激する要素を見出す役割を持ちたいと考えています。当該研究分野の発展性に寄与できる可能性を会員の皆さまと共に選び、賞を贈るという役目を担いたいと思います。

そのためには『図書館界』への活発な投稿が必要となります。研究者はもちろんのこと、各種の図書館現場において日々の図書館活動に邁進されている方々は、往々にして多忙で時間に余裕がないと思われかもしれませんが、何とか著作に勤しんで頂きたいのです。特に若手の方々に期待いたします。コロナ禍のもとで、あるいはデジタル化の進捗で、われわれ図書館関係者は図書館のサービスの在り方に見直しが必要だという事実を突き付けられています。利用者を支え、また利用者を支えられる図書館界に生きる図書

館関係者である会員の皆さまからの『図書館界』への投稿の増加を望みます。

この賞を受賞されたことにより未来の研究や職場での実践に後押しができることになれば、こんな嬉しいことはありません。良き書き手に図書館研究奨励賞を贈り、皆様とともに授賞者を讃えることを楽しみにしたいと思います。

当委員会の活動スケジュールは、例年通り概ね以下の予定です。

7月第3回理事会にて、選考委員会構成(外部委員含む5名)の承認

11月『界』11月号に、案内記事掲載、自薦、他薦募集開始

12月推薦締切

1月委員の評価締切、候補者決定

2月理事会において「受賞者」承認

2月あるいは3月研究大会初日、委員長から選評報告、理事長より奨励賞表彰状、副賞10万円(佳作の場合5万円)授与、受賞者挨拶

今年度(2023年度)の選考対象は、『図書館界』2021年11月号(73巻4号)から2023年9月号(75巻3号)までに掲載されたもの(詳細については、研究会ホームページ「図書館研究奨励賞」を参照)。

2022年度末をもって当委員会の前川和子委員長が退任されました。前川委員長は三期六年間の任期中、研究奨励賞の位置付けの明確化、賞選定基準の見直し、内規の整備、「佳作」賞の復活等に取り組みました。また選定委員の任期途中での急な退任、交代やコロナ禍での混乱など幾多の困難な事態を適切に乗り切られました。前川委員長のこれらの功績が歴代の委員長に匹敵凌駕するものであることを会員、関係者全員の記憶に留めたいと存じます。

理事会での承認により2023年度から当委員会の担当理事であった常世田良が委員長に、担当理事には新たに久野和子が就任いたしました。当委員会における事業の遂行は、会員、関係者のご協力無しには甚だ困難です。みなさまのお力、お知恵の支援を仰ぐ次第です。

(とこよだ りょう 元立命館大学)

(くの かずこ 立命館大学)

ブロックセミナー等で地域の活動をサポートします

ブロックセミナー担当
川崎千加・谷合佳代子

COVID-19による行動制限も緩和され、対面での集会も戻りつつあります。2022年度はZoomによるオンライン交流会を1度開催しましたが、ブロックセミナーは2021年3月の九州ブロック以来開催されていません。

各地域で気軽に足を運んで、図書館をテーマに議論できる場を設けたい。最新の研究成果に接することができる講演会を開催したい。地域の図書館活動の実践や、地元の図書館員の研究成果を共有し、地域の図書館員の交流の場を設けたい。ブロックセミナーは、こうした要望に応えるために、各ブロックの会員の申し出によって開催されます。セミナーという言葉にとらわれず、地域の図書館員との交流を図る座談会を開くなども考えられます。開催にかかわる経費は、原則として全額を日本図書館研究会が負担します。

人との繋がりや研修は図書館員にとって大切なものです。ブロックセミナーは対面開催を原則としますが、気軽にオンラインでブロックを超えて話したい場合は、オンライン交流会の開催も可能です。また、公共図書館に限らず学校図書館や大学図書館等、館種に関わらず開催が可能です。積極的にブロックセミナー等への希望をお寄せくださることを期待しています。

図書館を取り巻く状況が厳しく、会員数も減少している中ですが、各地域で図書館や図書館に関わる人々との交流の場、図書館について考え、語り合う場が持たれ、日本図書館研究会の活動が活発になることを願っています。

企画については、担当理事の川崎・谷合がご相談に応じます。まずは気軽に下記、事務局あてにご連絡ください。ブロックセミナーの開催要項等の詳細はホームページに掲載しています。

<https://www.nal-lib.jp/block-seminar/>

連絡先：日本図書館研究会事務局

電話：06-6225-2530

(月・木曜13時～17時)

事務局 E-mail：

nittoken@ray.ocn.ne.jp

(かわさき ちか 京都産業大学)

(たにあい かよこ エル・ライブラリー

(大阪産業労働資料館))



留学生への『図書館界』 無料頒布について

本会では、図書館情報学を学ぶ大学院留学生に『図書館界』の無料頒布を行っています。国際交流の一環として、図書館研究や図書館の理解に役立ててもらいたいという趣旨です。

2023年度も下記の要領で実施しますので、該当者は、大学院の指導教員を通じて本会事務局までお申し込みください。大学院生を指導される教員で該当する院生がおられる先生は、院生に声かけのうえ、本会にご連絡ください。

記

- 1) 対象者は、日本で図書館情報学を学ぶ大学院留学生で、向こう1年間の在学や研究が確定している者です。
- 2) 申込は、本会の会員である指導教員より申し込みください。
- 3) 『界』各号を当該留学生に直接送付します。2023年度は『界』75巻1号～6号(2023年5月号～2024年3月号)です。
- 4) 所定の申込用紙やその他の詳細については、本会事務局(下記)までお問い合わせ下さい。

E-mail：nittoken@ray.ocn.ne.jp

◆事務局への問合せ・連絡など◆

入会申込や会費納入、出版物の購入、その他の問合せは、事務局までメールにてお知らせください。本会 HP (<https://www.nal-lib.jp/>) に入会申込フォームや行事案内その他の情報を掲載しています。

本会事務局には、毎週月・木曜日の13時～17時に事務局員が常駐しています。直接の連絡はこの時間帯にお願いします。ただし、緊急の場合以外はできるだけメールまたは FAX、文書でご連絡ください。

〒550-0002 大阪市西区江戸堀 2 - 7 - 32

ネオアージュ土佐堀205号室

TEL&FAX：06-6225-2530

E-mail：nittoken@ray.ocn.ne.jp

◆『図書館界』オープンアクセスのご案内◆

『図書館界』は、J-STAGE(科学技術振興機構)で全文を公開しています。(51巻1号, 1999年5月号～最新号)。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/toshokankai/-char/ja/>

刊行後1年間はエンバゴ(公開猶予)期間ですが、個人会員の皆さまは、当会が発行する ID(購読者番号)とパスワードを使用して、エンバゴ期間中の号も記事全文を閲覧・ダウンロードできます。

刊行後1年を経た号は、オープンアクセスとして、誰でも無料でインターネットから閲覧できます。

ID、パスワードは全会員にもれなくお知らせしておりますが、お忘れの方はメールにて本会事務局までお問い合わせください。

メールアドレス：nittoken@ray.ocn.ne.jp

2022年度一般会計決算報告

《収 入》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
前年度よりの繰越金	2,845,354	2,845,354	
会 費	6,165,000	6,617,000	個人5,000円×766人=383万円 (21年:23, 22年:581, 23年:159, 24年:3) 学生3,000円×11人=3.3万円 団体8,500円×324=275.4万円 (21年:96, 22年:227, 23年:1)
『界』売上げ	1,250,000	1,294,200	6,800円×189=128.52万円 バックナンバー 抜き刷り代
広 告 料	220,000	308,000	
雑 収 入	5,000	16,047	事務所使用料 寄附・カンパ
利 息	10,000	34,521	
特別会計から繰入れ	400,000	400,000	2023-24年度役員選挙費
第3特会から繰入れ	588,225	588,233	第3特会残金を繰入れ
合 計	11,483,579	12,103,355	

《支 出》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
会 合 費	300,000	68,755	研究委員会 編集委員会
交 通 費	660,000	30,400	理事会 評議員会 特別研究例会 会計監査
研 究 調 査 費	460,000	430,475	原稿料 研究グループ助成
研 究 助 成 費	700,000	225,859	研究大会・セミナー・研究例会・特別研究例会 Zoom アカウント
雑 誌 刊 行 費	4,576,000	4,506,920	73巻6号～74巻5号 J-STAGE 搭載費
組 織 強 化 費	50,000	0	
印 刷 費	50,000	52,755	『界』送り状 封筒印刷
国 際 交 流 費	30,000	0	
役 員 選 挙 費	400,000	397,408	会員名簿 投票用紙・封筒 切手・後納郵便代 交通費
通 信 費	750,000	538,815	『界』郵送費 電報・電話代 切手・レターバック代
払 込 料 負 担 費	10,000	2,610	業者払込料負担金 郵便振替
消 耗 品 費	100,000	64,775	OPP 封筒 プリンター用ラベル プリンター用 インクボトル ほか
事 務 局 費	1,800,000	1,576,702	人件費 事務所借用料 光熱水費 サーバレンタル料 火災保険
予 備 費	1,597,579	0	
小 計	11,483,579	7,895,474	
次年度への繰越金	0	4,207,881	
合 計	11,483,579	12,103,355	

2022年度特別会計決算報告

《収入》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
前年度よりの繰越金	17,847,611	17,847,611	
情報資源組織法	900,000	509,298	332冊
図書館資料の目録と分類 増訂第5版	300,000	242,084	267冊
文化の朝は移動図書館 ひかりから	30,000	9,240	3冊
日本図書館研究会の75年	1,000,000	0	未刊
そ の 他	20,000	27,388	図書館・図書館学の発展4／日本図書館学の奔流2／日図研の50年1／ コンサイス AACR2R1
合 計	20,097,611	18,635,621	

*利息は一般会計に一括して計上されている

《支出》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
出版編集会合費	20,000	0	
出版編集費	50,000	0	
出版印刷費	2,250,000	0	
通 信 費	200,000	80,672	書籍送付用宅急便・メール便 Amazon年会費
一般会計へ繰出し	400,000	400,000	2023-2024年度役員選挙費
予 備 費	17,177,611	0	
小 計	20,097,611	480,672	
次年度への繰越金	0	18,154,949	
合 計	20,067,611	18,635,621	

2022年度第2特別会計決算報告

【図書館研究奨励賞基金】

《収入》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
前年度よりの繰越金	10,515,247	10,515,247	基金1,000万円
利 息	20,000	28,635	定期預金満期更新
合 計	10,535,247	10,543,882	

《支出》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
奨 励 賞 副 賞	100,000	200,000	2件(坂下直子氏, 沢崎友美氏)
事 務 費	5,000	8,611	
予 備 費	10,430,247	0	
小 計	10,535,247	208,611	
次年度への繰越金	0	10,335,271	
合 計	10,535,247	10,543,882	

2022年度監査報告

2023年3月27日、日本図書館研究会事務所において会計監査を実施しました。その結果について報告します。

- 1) 支出に関する帳票・領収書類及び、収入に関する帳票類は、よく整理され、かつ記載事項に誤りがなく、会計事務は適正であると認める。
- 2) 財政に関しては、理事会、各委員会など関係者による節約、努力もあり、適正な執行がなされていると認める。漸減傾向が続いていた個人会員数が少し増加に転じたが、団体会員の減少が続き、収入の伸び悩み体質は解消していない。一般会計では次年度繰越金が前年度比137万余円の黒字となったが、これは新型コロナによる活動の制約を反映した支出減でもある。ただし同様の社会状況の昨年度監査で提唱した「収支の均衡化」に促進があったことは評価できる。コロナ解消、活動活性化の兆しが見られる新年度以降、財政運用に一層留意するよう期待する。
- 3) 研究会の預金について、特定の金融機関にまとまった金額が預けられている。金融市場が平穏であれば特段の問題は起こらないであろうが、その場合でもリスク分散の意味から複数の金融機関への分散が望ましいであろう。
- 4) インボイス制度が2023年度から本格実施される。当会など免税業者は10月以降消費税込みの定価をつけることが出来ないの、混乱しないよう適切に運用されたい。
- 5) コロナの収束が近づくにつれて、Zoom形式から、対面式のイベントを開催する機会も増えている。研究大会を対面形式で開催できたことは評価される。対面式のイベントが増えるにつ

れて、会場費等の支出も増えてくるであろうが、予算の範囲内で収められるように努力が求められる。

ブロックセミナーは開催出来なかったが、このセミナーの意義を再確認して開催に向けての体制作りに努めてほしい。また全国どこからでも参加できるオンライン形式のメリットも考慮して、「オンライン交流会」のような柔軟な運用が求められる。

研究グループは数こそ変わらないが、コロナ禍で活動を縮小または控えるグループもあり、今後、補助金が活きる活動の回復を期待する。

- 6) コロナ下の厳しい状況の中でもホームページのリニューアルに取り組み、大きな枠組みが構築できたことは評価できる。但し、コンテンツのアップデートの遅れなど、運用面においてまだまだ課題が残されている。またSNSを活用した積極的な活動も必要であろう。そのための体制作りにも取り組んでほしい。
- 7) 評議員制度を初め組織のあり方の検討を急ぎ、改革を実行されることを期待する。
- 8) 財政健全化方策の具体化に向けて、会員アンケート調査や若手会員を対象とした座談会で出された今後の日図研や『界』のあり方などについての有益な意見が生かされるように、若手会員の会の運営への参加を含めて積極的な取り組みが求められる。

以上、報告します。

2023年3月27日

監事 志保田 務[Ⓔ]
前田 章夫[Ⓔ]

決算報告、事業計画・予算案にご意見をお寄せください

本誌掲載の2022年度決算報告、2023年度事業計画・予算案の審議・承認は評議員会の役割ですが、会員の皆さまの声を聴き、審議に反映させたいと思います。当会の運営や行事についてのご意見・ご要望でも結構ですので、ぜひそれらをメール・FAX等でお寄せください。

送付先：事務局 nittoken@ray.ocn.ne.jp

送付期限：5月22日(月) 必着

評議員会日時：5月28日(日) 13:30～16:30

〃 会場：同志社大学今出川キャンパス

2023年度事業計画(案)

〈研究活動〉

1. 『図書館界』75巻1～6号の編集・発行
2. 第65回研究大会, 研究例会, 特別研究例会の開催
3. 第14回国際図書館学セミナーの開催
4. ブロックセミナー等の開催
5. 図書館・図書館学関係図書の出版

〈研究の奨励と会の拡大に関わる活動〉

6. 地域における研究活動の支援
7. 障害者会員への対応
8. 図書館研究奨励賞の授与
9. 国際交流の推進(上海市図書館学会との学術交流, 論文の相互掲載ほか)
10. 会員・研究グループの研究活動への助成
11. 留学生への『図書館界』の無料頒布
12. 会員および購読者の拡大
13. ホームページの維持・更新
14. 『界』オープンアクセス事業(J-STAGE)の継続

〈その他〉

15. その他本会の目的にそった事業

2023年度一般会計予算(案)

〈収 入〉

項 目	22年度予算	23年度予算	備 考
前年度よりの繰越金	2,845,354	4,221,356	
会 費	6,165,000	5,915,000	個人 5,000円×650人=325万円 学生 3,000円×10人=3万円 団体 8,500円×310=263.5万円
『界』売上げ	1,250,000	1,250,000	6,800円×180=122.4万円
広 告 料	220,000	220,000	
雑 収 入	5,000	10,000	事務所使用料 寄附・カンパ など
利 息	10,000	10,000	
特別会計から繰入れ	400,000	0	
第3特別会計から繰入れ	588,225		第3特会(75周年記念事業)は21年度をもって閉鎖
合 計	11,483,579	11,626,356	

〈支 出〉

項 目	22年度予算	23年度予算	備 考
会 合 費	300,000	300,000	研究委員会15万円 編集委員会15万円
交 通 費	660,000	1,030,000	理事会65万円 評議員会36万円 特別研究例会ほか
研 究 調 査 費	460,000	350,000	原稿料5万円 研究グループ助成29万円
研 究 助 成 費	700,000	600,000	研究大会・研究例会35万円 ブロックセミナー20万円 特別研究例会3万円 ほか
雑 誌 刊 行 費	4,576,000	4,280,000	8,800円×420頁×1.1=406.6万円 J-STAGE 搭載委託費22万円
組 織 強 化 費	50,000	100,000	入会案内 チラシ など
印 刷 費	50,000	50,000	『界』送り状 抜刷
国 際 交 流 費	30,000	300,000	第14回国際図書館学セミナー
役 員 選 挙 費	400,000	0	
通 信 費	750,000	750,000	『界』郵送料 切手代 電話代 ほか
払 込 料 負 担 費	10,000	10,000	業者払込料負担金 ほか

《支出》

項 目	22年度予算	23年度予算	備 考
消 耗 品 費	100,000	50,000	事務用封筒 プリンター用ラベル プリンター用インクボトル コピー用紙 ほか
事 務 局 費	1,800,000	2,310,000	人件費1050円×6h×10日×(12+6か月)=113.4万円 交通費1500円×10日×(12+6か月)=27万円 事務所借用料6.5万円×12=78万円 光熱水費10万円 サーバレンタル料2.5万円 ほか
小 計	9,886,000	10,130,000	
予 備 費	1,597,579	1,496,356	手話通訳10万円 ほか
合 計	11,483,579	11,626,356	

2023年度特別会計予算(案)

《収入》

項 目	22年度予算	23年度予算	備 考
前年度よりの繰越金	17,847,611	18,154,949	
情報資源組織法	900,000	600,000	
図書館資料の目録と分類 (増訂第5版)	300,000	150,000	残部195
日本図書館研究会の75年	1,000,000	1,000,000	新刊
塩見昇の学校図書館論		1,000,000	新刊
そ の 他	20,000	20,000	文化の朝は移動図書館ひかりから ほか
合 計	20,067,611	20,924,949	

※利息は一般会計に一括して計上されている

《支出》

項 目	22年度予算	23年度予算	備 考
出版編集会合費	20,000	20,000	
出版編集費	50,000	30,000	表紙デザイン料 ほか
出版物印刷費	2,250,000	2,050,000	日本図書館研究会の75年 110万円 塩見昇の学校図書館論 75万円 情報資源組織法別冊実例集 20万円
通 信 費	200,000	200,000	刊行物送料 ほか
一般会計へ繰出し	400,000	0	
小 計	2,920,000	2,300,000	
予 備 費	17,147,611	18,624,949	
合 計	20,067,611	20,924,949	

2023年度第2特別会計予算(案)

【図書館研究奨励賞基金】

《収入》

項 目	22年度予算	23年度予算	備 考
前年度よりの繰越金	10,515,247	10,335,271	基金1,000万円
利 息	20,000	20,000	
合 計	10,535,247	10,355,271	

《支出》

項 目	22年度予算	23年度予算	備 考
奨 励 賞 副 賞	100,000	100,000	
事 務 費	5,000	5,000	
予 備 費	10,430,247	10,250,271	
合 計	10,535,247	10,355,271	